

これ以上ガザの虐殺を許さない！ イスラエルの侵攻に抗議の声を！

1月3日夜（日本時間4日早朝）から始まったイスラエル軍によるパレスチナ・ガザ地区への地上侵攻によって、12月27日空爆開始以降の犠牲者は500人を超えました。今後パレスチナの人々に対する大虐殺が倍加することは避けられません。

イスラエル軍は800回を超える空爆、更には海上と地上からの砲撃をパレスチナの人々の頭上に加え、パンカーバスターや劣化ウラン弾（精密誘導爆弾 GBU-39U など）といった非人道兵器を使用し、甚大な被害を与えています。警察署や政府の建物はおろか放送局、モスク、病院、学校、住居、レジャー施設、自動車などありとあらゆる施設に対してなぶり殺しのような空爆が昼夜を問わず繰り返されており、住民は逃げ場もなくいつ殺されるかわからない恐怖のどん底に突き落とされています。空爆によって住民は外に出られないだけでなく、ライフラインをずたずたにされ、食料も手に入らない状態におかれています。ガザ地域では深刻な「人道危機」が生じています。

今回の攻撃は、突如起こったものではありません。イスラエルはガザ地区での実効支配を強めるハマスを攻撃する機会をうかがい、周到に準備してきたのです。停戦期間中もイスラエル特殊部隊がガザに入り込みハマス戦闘員を殺害するなどたびたび停戦協定を違反し、12月19日に半年の停戦協定が切れるのを待っていました。

その上、イスラエルは戦車、装甲車で武装した1万人の地上軍を投入し、侵攻に踏み切ったのです。ハマスの軍事拠点壊滅を口実に住宅地や人口密集地を集中攻撃し、パレスチナの住民もとも殲滅するような残虐な作戦が行われる危険があります。私たちは、言語を絶する蛮行に断固抗議し、今すぐ攻撃をやめるよう要求します。

アメリカは犯罪的な役割をしています。ブッシュ大統領は「悪いのはハマスだ」とイスラエルの侵攻を全面的に支持しています。人殺しの共犯者に他なりません。アメリカ政府は、イスラエルに対して攻撃の中止を求める安保理決議を妨害しました。そうすることで、即時停

抗議・要請先

駐日イスラエル大使館 FAX:03-3264-0792

mail:information@tokyo.mfa.gov.il

駐日アメリカ大使館 FAX:03-3505-1862

mail:jpn@pd.state.gov

首相官邸 FAX:03-3581-3883

<http://www.kantei.go.jp/jp/forms/goiken.html>（投稿ページ）

戦を求める国連や「国際社会」の解決を遅らせ、イスラエルが何に気兼ねすることなくガザを攻撃する時間を作り出しているのです。そもそも莫大な軍事・武器援助を行い、化け物のような巨大な軍事・侵略国家を作り出したのはアメリカです。イスラエルがパレスチナを攻撃している兵器もミサイルもアメリカが援助したものです。

全面侵攻と大虐殺を絶対に許せません。アメリカに強く抗議し、イスラエルに対して直ちに攻撃を中止するよう働きかけることを要求します。日本も無縁ではありません。麻生首相はイスラエルの侵攻を非難もせず、米と同様ハマスを敵視し「電話会談」でお茶を濁しています。日本はイスラエルに直ちに侵攻の中止と撤退を求めるべきです。

一刻も早くこの残虐行為を中止させなければなりません。世界各地で抗議の声があがっています。日本でも、一人一人ができるところから行動をおこしましょう。まずはイスラエル大使館とアメリカ大使館、首相官邸に、攻撃中止を求めるメール、ファックスを送ってください。侵略反対の大きな世論をつくりだしましょう。（2009年1月5日）

ライブ・イン・ピース 9+25 <http://www.liveinpeace925.com/>

（旧アメリカの戦争拡大と日本の有罪法制に反対する署名事務局）

TEL 090-5094-9483（事務局 大阪）メールinfo@liveinpeace925.com